

生活単元学習学習指導案

指導者 小野村 晃太

- 1 日 時 令和5年11月18日(土) 第2校時(10:05~10:55)
- 2 学年・組 中学校第2学年3組 計4名(男子4名)
- 3 場 所 中学校第2学年3組教室
- 4 単元名 わたしと東雲のまち
- 5 単元について

本学級は、知的障害特別支援学級であり、男子4名から構成されている。言葉でのコミュニケーションは得意だが、筋力が弱く細かい作業や書字が難しい生徒、集団になると緊張して何をしていたかわからず、口頭での指示理解が難しい生徒、過去の失敗経験から自己肯定感が低く消極的になってしまう生徒等、実態は様々である。4人は、全員異なる小学校の出身で、入学当初は自分から相手に関わっていくことは少なかった。しかし、中学校での生活や学習を通して、互いに助け合う場面や、話し合いで物事を決めることができたり、役割分担をしたりといった姿が多くみられるようになってきている。一方で、自分自身のことについて関心が向きづらく、授業準備では保護者や分かる友達に頼ってしまったり、失敗経験の積み重ね、生活経験の少なさからくる自己肯定感の低さが原因の一つとなって、一人で何かを決めて行動することが億劫になったりしてしまうという課題が見られる。

本単元は、生徒が自分の生活を振り返って、自分たちが日頃に使っているものは一体どこから来ているのか、どこで手に入るのか、という疑問からスタートする。生徒が自分自身の生活に注目することで、「自分事」として本単元に取り組んでいけるようにする。また、本単元は東雲の町を舞台に展開する。生徒はこれまでに、生活単元学習では町探検(通学路探検)やゆるキャラ(しのめさん)探し、余暇活動、買い物学習、国語では郵便局に行く活動等を通して、東雲の町に触れてきた。こういった学習活動の中で、東雲の町にはどのような店・企業・施設や自然があるかを実際に見たり、地図にまとめたりしている。生徒自身のことと、これまで学習してきた東雲の町をつなげることで、生徒の思考を促し、意欲的に活動に取り組む姿を引き出したい。最後に、生徒各々のこれまでの生活経験を言いながら、この疑問に対する答えを予想したり、実際に確認したりして「これはここに行けば手に入る」という知識だけでない成功経験を積ませたい。この成功経験から、今後行われる修学旅行の持ち物の準備を自分から行うことや、家庭に帰って、消しゴムや歯ブラシなど自分で買いに行くという主体的な行動につなげていく。

指導にあたっては、地図やカード・写真など、生徒が視覚的にわかり、具体的に操作しやすいものを準備する。書字が苦手な生徒、短期記憶が苦手な生徒の思考の促しとして活用する。また、授業では話し合う時間、発表する時間、意見を言う時間を明確にする。自分とは異なる意見や考えに触れる時間を意図的に設定することで、他者の生活経験を想像して疑似的に体験したり、自分の経験と比較したりして、生活の幅を広げることを目的として行う。さらに、自分の意見と他者の意見を自分で比較することが難しい生徒には、一つずつ確認の言葉がけを行い、思考を促す。まとめの場面では、話したり考えたりしたことを、写真に撮ったり文字化してまとめておくことで、次の学習につなげていく。

6 単元の目標

- (1) 他者の発表を聞き、自分の意見と比較・対応させて考えることができる。
- (2) 自分たちが普段使っているものが、東雲の町ではどこで手に入るのか、既習知識やこれまでの自分の経験をもとに予想することができる。
- (3) 自身の生活を振り返り、普段当たり前に使っているものについて考えることで、自分のことに関心を向けることができる。

7 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な生徒の姿
VIII	授業で得た知識・経験を使って、家庭生活に活かすことができる。
VII	予想と実際を比較し、言葉で表すことで自身の経験とすることができる。
VI	他者の生活経験を踏まえて、予想することができる。
V	自分の生活経験をもとに、手に入れることのできる場所を予想することができる。
IV	普段使っているものがどこで手に入るのかわからない（自信がない）自分に気づくことができる。
III	普段使っているものはどこで手に入るのか、考えることができる。
II	普段どんなものを使って生活しているか、意見を言うことができる。
I	自分の生活を振り返り、普段どんなものを使って生活しているか考えることができる。
手立て【関連する教師の資質能力】	
<p>○自分自身のことに興味を向けさせるために、自身の生活を振り返る中から出てくる疑問に焦点を当てて授業を展開する。【授業構想力：教材研究・生活との結びつきのある指導内容の設定】</p> <p>○これまでに学習してきた内容（東雲の町について）を扱うことで、生徒の思考を促す。 （例：「東雲にはこんな店があるから、ここで買えるよね。」という予想を支持するきっかけになる。） 【授業構想力、授業実践力：主体的に活動を促す手立て】</p> <p>○グループ活動・発表活動を取り入れる。自分とは異なる意見や考えに触れる時間を意図的に設定することで、他者の生活経験を想像して疑似的に体験したり、自分の経験と比較したりして、生活の幅を広げる。【授業構想力：学びに向かう態度の育成】</p> <p>○予想だけで終わらず、実際にその場所を訪れて確認することで、知識で終わらず経験として次につなげていく。【授業構想力：生活との結びつきのある指導内容の設定】</p>	

※上記のものは、本単元のもので、当日の授業については別途資料で配付する。

8 指導計画（全12時間）

次	時	学習内容
1	2	黒のマーカーってどこで買える？
2	2	自分がいつも使っているもの
3	2	東雲のまちのどこにある？（本時1／2）
4	4	確認しに行こう！（校外）
5	2	まとめ

9 本時の目標

- ・クラスメイトの発表を聞き、他者の意見を受け入れたり、自分の意見と比較して考えたりすることができる。【知識・技能】
- ・自身の生活経験をもとに、普段わたしたちが当たり前に使っているものがどこで手に入るのか予想することができる。【思考・判断・表現】

生徒	本単元に関わる実態	個人の目標（本時）	目標達成のために考えられる手立て
A	語彙は比較的豊富で、他者とのコミュニケーションもよく取る。 筋力の弱さや動きの遅さから「誰かにやってもらう」ことが多くなりがちで、自身のことに関して無関心になりがちである。	自身の生活経験を振り返り、意欲的に予想に参加することができる。	これまでに学習してきた東雲の町を舞台にすることで意欲を引き出す。操作しやすいカードを用いることで、積極的に予想に参加しやすくする。
B	責任感が強く、学習の意欲が高い。家庭では一人っ子で、友達と遊ぶことも少ないため、生活経験の広がりがない。	発表を聞いて他者の生活経験を知り、自分の生活経験と比較して意見することができる。	他者の生活経験を受け入れたり、比較したりすることができるよう、互いに意見を言い合う時間を設けたり、言葉がけで促したりする。
C	自身が経験したことはよく覚えており、他者に詳しく説明することができる。 授業準備などは他者に頼りきりで、自分で責任もってやるという意識が薄い。	自身の生活経験を振り返り、意欲的に予想に参加することができる。 他者の発表を聞き、その意見を受け入れることができる。	理由を「経験したこと」とすることで、意見を促す。 他者の生活経験と自分の生活経験が区別できるよう、言葉がけや視覚支援として枠を作る。
D	学習意欲が高く、成功経験の積み重ねにより少しずつ積極的になってきた。他者への気配りは率先して行えるが、自分自身で何かに挑戦する際は足踏みしてしまうことが多い。	自身の経験を踏まえ自信をもって発表することができる。 発表を聞いて他者の生活経験を知り、自身の経験と比較して考えることができる。	予想をする段階で、自分の経験を理由として書くことで、予想した地図を頼りに発表できるようにする。

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1. 導入（10分）</p> <p>□前時までの振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までにまとめた、「自分たちが毎日使っているものリスト」を確認する。 ・これまでの学習で作成した、東雲の地図を確認する。 	<p>○前時までにまとめた、「自分たちが毎日使っているものリスト」を提示する。</p> <p>○活動の目的・目標を生徒の言葉で確認する。</p>
<p>普段使っているものがどこで手に入るか、経験をもとに予想してみよう。</p>	
<p>2. 展開①（15分）</p> <p>□2つのグループに分かれて、地図に予想を書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちが使っているものリスト」を「学校で使うもの」「家で使うもの」の2つに分類し、それぞれ2名ずつで予想する。 ・地図上の店の近くに、使うもののイラストが描かれたカードを貼る形で予想する。 <p>3. 展開②（15分）</p> <p>□予想した内容を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、黒板に地図を貼って予想と理由を説明する。 ・発表するだけでなく、聞く側は質問したり、自分の経験を伝えたりする。 <p>4. まとめ（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表した際に出た意見を、地図に反映する。 ・地図を生徒がそれぞれタブレット端末で撮影し記録しておく。 ・本時の予想に対する感想をワークシートに書く ・次時以降の流れを確認する。 	<p>○予想をするときに、必ず理由を付けるように促す（活動に入る前に型を提示）。（例：前に似たところで買ったことがあるから。何となく…等）</p> <p>○思考を素早く地図に反映できるように、使っているもののイラストカードを地図に貼る形で予想する。</p> <p>◆理由（自分の生活経験等）をもとに、予想することができる。【思考・判断・表現】</p> <p>◆2人で話し合いながら、活動時間を意識して地図にカードを貼っていくことができる。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○発表するときに、予想した内容だけでなく、そう考えた理由も併せて話すように促す（活動に入る前に型を提示）。</p> <p>◆相手に伝わるように工夫しながら発表することができる。【知識・技能】</p> <p>◆他者の経験と自分の経験を比較し考えることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>○本時の学びを振り返り、記録をすることができるよう、十分な活動時間を確保する。</p> <p>○本時の予想に対する感想をワークシートに書く</p> <p>○感想を書く手がかりとなるよう、地図は黒板に掲示したままにしておく。</p>